

年 度 評 価 シ ー ト

課名 文化政策課

施設の名称	静岡市清水文化会館	指定管理者名	清水文化事業サポート株式会社		
1 履行状況					
(1) 目標達成					
ア 施設利用者数					
目標値500,000人					
実績値543,068人（前年度375,700人）					
達成率108.6%（前年度比144.5%）					
【参考】令和元年度（コロナ前）					
目標値430,000人、実績値439,484人、達成率102.2%					
イ 施設利用率					
目標値 大ホール、小ホール、ギャラリー利用率70%					
実績値 83.3%（前年度76.3%）					
達成率 119.0%（前年度比109.1%）					
【参考】令和元年度（コロナ前）					
目標値 65.0%、実績値 83.5%、達成率 128.5%					
	R7利用者数	R7利用率	R6利用者数	R6利用率	
大ホール	198,099人	94.2%	159,579人	87.7%	
小ホール	32,467人	71.1%	28,859人	66.8%	
ギャラリー	120,842人	84.7%	56,077人	74.6%	
リハーサル室	21,025人	77.3%	30,919人	73.8%	
練習室1	2,518人	58.2%	2,691人	62.3%	
練習室2	2,447人	54.3%	2,235人	48.8%	
その他	165,670人	—	95,340人	—	
合計	543,068人	—	375,700人	—	
(2) 人員配置状況					
維持管理・運営業務計画書のとおり要員配置をし、施設の稼働状況や運営状況に合わせて、都度対応を行った。					
勤務シフトについてはA勤務とB勤務の2交代制とし、開館時間中は業務責任者以上の役職者が必ず1名以上在席し、受付や問い合わせに対応できるよう等、開館状況に対応できるように勤務シフトを設定することができた。					
(3) 業務実施状況					
令和7年度は、主催事業を8回、共催事業を19回実施し、事業計画に則り安定的に事業を展開することができた。					

① 高次高質な芸術文化の鑑賞機会の提供

媒体社との共催による全国レベルの事業を誘致、開催し発信力の高い事業を実施した。ミュージカル公演「SPY×FAMILY」は、超人気コミックのミュージカル版で、心温まるストーリーと高いクオリティで、子どもから大人まで楽しめるものであった。「劇団四季こころの劇場」では、静岡市教育センターと共催で静岡市内の小学6年生の招待公演として実施し、子どもたちに舞台芸術に触れる機会を提供した。音楽事業では、「宮田大×LEOデュオ・リサイタル」で、チェロと箏による美しい音色、日本の懐かしさを感じさせる民謡からLEO氏作曲の現代的なオリジナルまで幅広い楽曲が演奏され、さらには、文化庁による「劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」に採択され、18歳以下の子どもを無料招待し、文化芸出への接触機会の創出が図られた。

このような取組は、本施設の運営業務に係る要求水準書のサービスの基本方針である「高次高質な芸術文化の鑑賞機会を市民に提供する」という方針に合致する取組であり評価できる。

② 多彩な文化の継承と独自文化の創造

平成24年度から継続事業として実施している「清水にぎわい落語まつり」では、商店街等と連携して、清水区出身の落語家春風亭昇太師匠の声掛けにより人気の落語家を招き、延べ3日間で2,069人の方が来場した。

春風亭昇太氏をはじめとした人気の落語家が3日間にわたり清水地域の各所で落語会を開催することで、地域連携及び、回遊性を持たせており、毎年多くの来場者が期待できる一大イベントに定着しつつあり、清水のまちなかでの落語文化が芽生えている。

このような取組は、要求水準書の基本的な考え方である「多彩な文化の継承と独自文化の創造」に合致する取組であり評価できる。

③ 清水都心における文化交流の促進

一般財団法人地域創造が実施する「地域の文化・芸術活動助成事業」として平成28年度から平成30年度まで認定されていた「マリナート・ウインズ“響きのある街”プロジェクト」については、本施設が文化交流・発信の中心地となり、地域とホールの特性を活かしながら音楽を通じた新たな交流を促進するための事業として、継続して取り組んでいる。

本年度は、中・高校生を対象としたユースチームを新たに編成し、学校や学年を超えた交流の機会を創出するとともに、須川展也氏による専門的な指導を受ける場を提供した。

また、清水さくら病院でのアウトリーチコンサートや静岡市こどもクリエイティブタウンま・あ・るとの共催による音楽鑑賞講座、開場後のステージうえるかむコンサートといった本公演以外の活動も積極的に実施した。

このような取組は、要求水準書の基本的な考え方である「清水都心における文化交流の促進」に合致する取組であり評価できる。

＜主な主催事業＞

事業名	来場者数	目標値	達成率
マリナートBRASSカップ In Shizuoka City2025	2,633人	2,000人	131.6%
夜祭しみず	26,000人	10,000人	130.0%
第13回清水にぎわい落語まつり	2,069人	2,000人	103.4%
“響きのある街プロジェクト” 2026 第11回市民吹奏楽団マリナートウィンズ×須川展也	783人	1,000人	78.3%

（４）市との連携

清水駅東地区文化施設整備及び維持管理・運営事業特定事業契約書第60条で定められているとおり、月報については業務を行った月の翌月の10日までに、半期報告書については当該半期の最終月の翌月10日までに、年度報告書については翌年度の4月30日までに作成し、市に提出している。

また、定例会を年3回、関係者協議会を年1回実施しており、維持管理業務等の状況報告、課題事項の共有や解決策の検討を行っている。

（５）危機管理

展示物を安全に使用していただくため、開館時の全展示物の稼働テスト及び閉館時の状況把握、施設内の巡回等、建築物や各種設備について異常がないか確認をしている。

また、緊急時等における来館者の避難誘導については、指定管理者である（公財）静岡市文化振興財団が定めている「震災等対策計画」等により非常時に備え、職員研修や避難訓練等を通じて、起こりうるさまざまなリスクに対し万全な体制を確保しており、緊急時・非常時には適切に避難誘導できる体制が整っている。

【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

【具体的な意見・要望の内容と対応状況】

利用者からの意見・要望については受付窓口、電話、意見箱、利用者アンケートの他、マリナートHPにも問い合わせフォームを設けて対応している。利用者アンケートでは、施設、設備、立地、応対すべてにおいて概ね好評価を得ている。

〈意見・要望〉

・利用者からの意見

- ① 台風の影響で雨漏りがあって残念だった。
- ② ギャラリーへの動線が分かりづらい。

・対 応

- ① 速やかに漏水個所を特定し、修繕を実施した。
- ② 来館者への丁寧な声掛け・案内を実施している。

【検証・分析等】

利用者からの意見・要望に対し概ね適切な対応がとられており、即時の対応が困難である要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされているといえる。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

（１）利用者満足度調査

今後の施設運営へ反映させるため、施設利用者を対象に、主催事業の内容に対する満足度調査を実施した。

【調査結果】

回答者総数：6,570人、「良い」以上の回答をした人：4,073人

【検証・分析等】

主催事業における公演内容の満足度は88.8%（前年度91.3%）であり、すべての項目が高い水準であることから、良好な評価を得ている。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

（２）市民アンケート

施設の認知度調査のため、公益財団法人静岡市文化振興財団が市内文化施設などの利用者を対象にアンケート調査を実施した。

【調査結果】

回答者総数：5,729人、当該施設を「知っている」と回答した人：4,073人

【検証・分析等】

施設認知度は71.1%であり、前年度（73.4%）と比較して減少した。事業内容の広報だけでなく市民が気軽に来場できるイベントを企画し、施設の魅力をアピールする取組を行いながら、認知度を高めていくことを期待する。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

4 指定管理者の経理状況の評価

【収支状況】

P F I 事業により維持管理・運営業務を実施しているため、詳細な収支情報は把握しきれてはいないが、財務モニタリングにおいては、令和6年度の財務状況が良好であることが確認できている。

利用料金収入状況は下記のとおり。

	収入	前年比（円）	前年比
令和6年度	79,592,330 円		
令和7年度	95,192,605 円	15,600,275 円	119.6%

【検証・分析等】

利用者数の増加とともに利用料金収入も増加しており、財務モニタリングについても経営状況、財務状況は良好な状況であることから、経理状況は良好である。

【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

【検証・分析等】

開館（平成 24 年 8 月 1 日）14 年目、年間通じての運営は 13 年目となったが、維持管理及び運営は、要求水準書、契約書及び事業計画書等の内容に基づき適切に実施された。

施設の維持管理面については、利用者が安全かつ快適に利用できるよう適切に実施され、市との情報共有も円滑に行われている。維持管理を担う主務業者以外にも関係構成員間の連携により順調に対処されており、高い危機意識のもとで施設を運営している点は十分評価できる。

運営面について、ホール・ギャラリーの利用率は静岡市民文化会館の休館に伴い、大幅に増加しているが、順調な施設運営がなされている。主催事業についても、様々な分野の事業を積極的に実施し、効果的な広報や地域との連携がなされている。

また、マリナートを清水の中心市街地活性化の 1 つの拠点とすべく、毎月中心市街地情報交換会を開催し、地元商店街関係者や経済団体関係者、市役所他部署と各々のイベント情報などを交換し、清水の賑わい創出についての課題を共有している。このことは、運営業務仕様書の運営基本方針である「地域文化の振興と賑わいを創出する文化拠点」を体現する取組であり、大変評価できる。

令和 4 年度から、第 3 ターム「基盤発展」（令和 4 年～8 年度）に移行しており、「年間来館者数 500,000 人」、「大ホール、小ホール利用率 70%、ギャラリー利用率 70%」が目標値となっているため、次年度においてもリピーターを増やす取組にも期待したい。

今後も市民ニーズを把握しながら、清水区のまちづくり関係者と連携した取組を行い、多くの市民に親しまれる施設となることを期待する。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。